



No. 99

全国図書館大会が 岡山市で開催

今、図書館界をとりまく状況には
厳しいものがあります。

公共図書館は、全体として見ると、
毎年図書館数や貸出冊数は増加して
いるにもかかわらず、一九九八年を
ピークに資料費は減り続けています。
最近では年間一億円程度の減少が見ら
れます。また、専任職員数も減少し
ています。そして、いま運営を民間
に全面委託できる指定管理者制度が
新たな問題を引き起こしています。

学校図書館では、「学校図書館図
書整備新5か年計画」により資料費
の交付税措置がありますが、十分活
かし得ていない学校が多いようです。
他にも、司書教諭や学校司書の配置
等の課題を抱えています。

大学図書館でも、資料費は減少の
傾向にあり、国立大学の独立行政法
人化により、より一層厳しくなると

考えられています。こうしたことは
岡山県においても同じです。

暗い話題が多い図書館界ですが、
明るい動きもありました。

二〇〇一年には「子どもの読書活
動の推進に関する法律」、二〇〇五
年には「文字・活字文化振興法」が
公布施行されました。両法律とも、
図書館に対する社会的期待が大きい
ことをものがたるもので、図書館を
大きく前進させる可能性を持った法
律といえます。

こうした状況の中で、平成十八年
度全国図書館大会が次のとおり岡山
県で開催されることになりました。
(社)日本図書館協会と岡山県(教育委
員会)、岡山市(教育委員会)、そし
て岡山県図書館協会の主催です。

明治三十九年に東京で第一回が開
催されて今回の岡山県の開催で九十
二回になります。岡山県での開催は
昭和三十八年の第四十九回大会に続
いて二度目です。

今、岡山県は県立図書館を中核と
した県内図書館ネットワークの構築

及び電子図書館の推進に取り組ん
でいます。今回の岡山大会を契機に、
公共図書館、大学・短大・高専図書
館、学校図書館等の協力関係を一層
進め、住む地域に関係なく全ての県
民が充実した図書館サービスが享受
できる「図書館先進県おかやま」の
実現に向けて踏み出したものです。

開催県として全国からの参加者
をおもてなしすることはもちろん、
せつかくの地元開催、一人でも多く
の県内の図書館関係者の参加を期待
してお待ちしています。

(岡山県立図書館副館長

菱川 廣光)

平成18年度 第92回
全国図書館大会
岡山大会
平成18年10月26日(木)・10月27日(金)

晴れの国岡山から未来へ向けて
広げよう図書館の可能性

○第1日目 10月26日(木)

開会式・表彰式・全体会 13:00~17:00
岡山シンフォニーホール
〒700-0822 岡山市表町1-5-1
電話: 086-234-2001

基調報告 (社)日本図書館協合理事長 塩見 昇 氏
記念講演 あさのあつこ 氏 (児童文学作家)
演題「物語りの日々」

交流会 18:00~
ホテルグランヴィア岡山 4階 フェニックス
〒700-8515 岡山市駅元町1番5
電話: 086-234-7000

○第2日目 10月27日(金)

分科会(11分科会) 9:30~16:30
岡山県総合福祉会館ほか岡山市内6会場

ボランティアの集い 13:00~16:30
ルネスホール

市町村合併後の図書館 ①

今回から三回にわたり合併後の各図書館の様子をお届けします。第一回は美作地域です。



【平成18年4月1日現在】

単館運営から複数館運営への変更に伴って登録要件、貸出冊数の制限、貸出期間、予約の取り扱いなど、各窓口で統一できていないと差しさわりのあるものは準備段階で協議し統一しました。また、システム移行後に問題になると思われるデータの修正作業や新システムでの操作指導・研修の実施により、合併後の混乱は、いろいろあったとはいえ最小限にとどめることができたとされています。

各地区館は、合併前の二・四万冊規模の図書館から一気に三十万冊の蔵書を利用できる状況になり、貸出・返却ともいづれの窓口でも可能になりました。利用者にとっての利便性も向上し、職員もそれを喜ぶ一方で、

人気の本については全館で予約に対応しているの、地区館の書架に出ない状態が生まれています。地区館の職員は、立場の差はあれ各二名の配置で運用しています。そのため週休対応として地区館職員が一名出勤の日には本館から「事務援助」で職員が行きます。ある月では延べ三十一日分。地区館の事務を本

館で行っていることも含めて本館の負担も大きくなりました。

津山市では合併時のシステム統合により新市の図書館活動の基盤は整いました。一年を経過した現在、複数館運営を「軌道にのせる」時期は終わったと思います。しかし合併時に図書館未設置地区であった阿波地区への対応など市域拡大への対応は課題のまま残されています。今、図書館が直面している様々な問題や、文部科学省の報告「これからの図書館のイメージ」にあるように従来の図書館のイメージから、より市民に役立つ施設となるためには「今まではこうしていた」という職員の意識も変えていく必要があるように思います。

(津山市立図書館 大河原信子)

●真庭市

真庭市となって二年目を迎えましたが、まだまだ落ち着いたとはいえない状況です。前年度は三つの図書館と四つの図書室との連絡会を数回開きましたが、まず本の購入方法から統一し、分類の仕方、図書に関する認識などいろいろなことを話し合いました。一番大変だったのは、やはり本の購入方法です。町の時は当たり前だったものが、「どうしてそこから買わなくてはいけないのか」を業者に来てもらい、市役所の

職員に聞いてもらいやつと解決しました。その間本が買えないのではなにかと不安を覚えましたが、なんとか継続的に買うことができるようになりホッと胸を撫で下ろしました。

理想図は、全館・室が一枚のカードで利用でき、どこでも返却ができるという当たり前のものですが、まだまだ理想は程遠いものとなっています。現段階では久世・勝山の図書館は同じシステムを使い、この四月から一枚のカードで利用できるようになりました。

どちらでも返却が可能となり、お客様にとっては便利になりましたが、運搬する本の数も増え真庭市内の搬送便に乗せることが困難になりました。今では職員が仕事を終えて本を配送するといった事態になっています。まだ近い地区なのでそれでもできますが、これから全ての地区でもどこでも返却可能となると、早く対応を考えなければと悩んでいます。真庭市となって利用者カードも一新しました。カードのデザインも地区を特定するように写真はやめにしようというところで、絵本作家の村上康成さんに真庭のイメージに絵を描いていただくようお願いしまし



ようにお願しまし

●津山市

平成十七年二月二十八日、旧津山市、加茂町、阿波村、勝北町、久米町が合併し新津山市となりました。人口一〇、九一一人（平成十八年四月一日）、市域は五〇六、三六km。合併にあわせて図書館では阿波村を除く一市三町の図書館の電算システムを統合し、組織も旧津山市立図書館を本館、他の図書館を地区館として社会教育課に所属。図書館長は全館の館長を兼ねています。

た。とても素敵なカードができあがり、私たち職員はもちろん利用者さんも喜んでくださっています。理想はまだまだですが、職員同士が同じ理想を持って進んでいくしかないと考えています。一步一步を確実に。

●美作市



(真庭市立久世図書館
三村さゆり)

美作市は平成十七年三月三十一日に勝田町・東粟倉村・大原町・作東町・美作町・英田町の六カ町村が合併して誕生しました。現在、市内には五つの図書館と一つの図書室があり、多くの市民が利用されております。

そして合併により、市内に在住または、市内の事業所及び学校に通勤・通学されている方であれば、どの図書館でも利用できるようになりました。また、今年度からは本の貸出・返却が市内のどの図書館でもできるサービスを始めました。近くの図書館に探している本がない場合、他の図書館から近くの図書館へ取り寄せたり、借りた図書館でなくても返却することができるようになりました。

した。また、貸出冊数や貸出期間もすべての館で統一しました。これにより、市内の図書館を気軽に利用していただけるようになりました。

今後の計画としては、市内六図書館の電算システムの統一を検討しています。現在、中央図書館・作東図書館・英田図書館の三館で、今年度中の実施を目標に計画を進めています。利用者カードも統一し、一枚のカードで市内であればどの図書館でも利用が可能となり、各図書館の情報も共有化することで、利用者へのサービス向上と経費の削減に努めます。

利用案内

図書館名	開館時間	休館日
中央図書館	9:30~18:00	月曜日、第3日曜日、祝日(休館日と重なる場合はその翌日)、年末年始
作東図書館	8:30~17:00	月曜日、月末整理日、(土日の場合はその翌日)、年末年始
英田図書館	10:00~18:00 (休館日は17:00まで)	月曜日、第3日曜日、祝日、月末整理日(土日の場合はその翌日)、年末年始
大原図書館	8:30~17:00	土・日曜日、祝日、年末年始
東粟倉図書館	9:00~17:00	日曜日、祝日、年末年始
かつた市民センター図書室	8:30~17:00	土・日曜日、祝日、年末年始

※貸出冊数 1人10冊まで
※貸出期間 15日限

つずつ解決し、一日でも早く今まで以上に身近で便利になり、市民生活の一部と感ぜられるような図書館運営を目指して努力していきたいと思っております。

(美作市立中央図書館 山本昌代)

●鏡野町

鏡野町は、平成十七年三月に、それまでの鏡野町、奥津町、富村、上斎原村が合併し、新町となりました。町内に図書館は一館のみですが、他に公民館図書室が三室あります。

合併前、各図書室では、資料費の削減があり、県立図書館からの貸出資料を利用していました。合併後はそれに加え、当館からの貸出資料も活用しています。最近では、各図書室からのリクエストも寄せられるようになり、できる限り応じるように努めています。

また、学校への貸出しや、読み聞かせ等をする機会も増え、ブックスタート会場も二会場となりました。旧鏡野町以外の地域の方々も、合併前から当館を利用していただくことができましたのですが、同じ町内になつたということがきっかけで、足を運んで下さるようになった利用者が増えていきます。学校や、地域の集まりで、見学に来られたり、一番遠い地域の中学校から、図書館にバスで職場体験に訪れたりすることもあります。インターネットからの予約も徐々に増えていて、頻繁に来館できない方にも便利に活用していただければと思います。

図書館は、町の南端にあり、町内全域へどのようにサービスを展開し



を提供していきたいと思えます。
(鏡野町立図書館 酒井由美恵)

企画展示 奈義町立図書館

奈義町立図書館は奈義町現代美術館との複合施設です。設計は建築家・磯崎新氏によるもので、図書館はワンフロアの二階と中三階からなり、中央の天窓から自然採光を取り入れ、四方全壁面は書架という開放的な造りになっています。館内での企画展示個所は三箇所あります。児童コーナーの角にある展示書架、南窓側にあるテーブル、展示用の小型ブックトラックの三箇所を活用し、親しみやすい雰囲気づくりを心がけています。展示はいずれも年四〜五回ほどのペースで入れ替えをしています。今回このお話をいただいて、過去の企画展示を調べてみましたが、写真としては残していなかったのが、

ていくかという課題が残っています。各図書室や、学校との連携をさらに深め、利用しやすく身近に感じられるサービス

現在のものをご覧ください。



まず児童コーナーの企画展示ですが、ここは絵本を中心に特集しています。写真は「変身！の本」です。

その前は「春だ！外へ飛び出そう」と題して、野山へ出かけたくなるような本を集めてみました。展示架なのであまり冊数を置くことはできませんが、楽しい雰囲気づくりを心がけて、展示棚の底板を帯状に、折り紙やイラストで飾っています。過去の特集では「恐竜の本」「いろ・いろの本」「魔法の本」「てがみの本」「冒険の本」「パンの本」「外国の昔話」などがあります。ここに並べた本はよく貸出されますので、随時補充していきます。

次は南窓側のテーブルです。もともと閲覧用のテーブルとして設置されていた所ですが、展示に最適な大きさなので利用しています。写真は「地震の本」で、一般書から児童書まで、防災関係からルポルタージュ、

フィクションなどを集めてみました。



過去の特集は「犬の本」、「鍋の本」「年末年始の本」「図書館の本」「ファンタジーの本」「秋の本」「アウトドアの本」「作家の追悼特集」などがあります。

最後は企画展示用に購入した小型ブックトラックで、主に一般書を展示しています。写真は「脳を活性化！大人のパズル」と題し、普段、貸出しに出そうでない論理パズルを中心に集めてみました。



設置場所がF書架（日本の近代小説）や新刊書の近くということも

あって目に付きやすく、ついでに借りて帰られることも多く大変好評です。過去の特集は「若者におすすめの本」、「雪の降る夜に読みたい本」、「読みたい本がみつかる本」、「泣ける本」、「大人もよめる絵本」、「シニア世代にすすめる本」、「怪談の本」などがあります。

このように利用者の興味を引くような展示をと、毎回職員全員でアイデアを出し合っています。一度閉架書庫に引いた資料でも、企画展示により再び利用されるケースもあります。

館内の蔵書資料を生かせるように、これからも魅力ある企画展示を心がけていきたいと思っています。

（奈義町立図書館 飯綱陽子）

☆個人会員の紹介☆

道半 ば

渡部 秀人

（元早島町立図書館長）



縁あって町立図書館の開館準備及び開館後の運営に関わりましたが思い返しますと平成九年末以来の足掛

け十年は本当にあつという間の出来事でした。いつも何事に対しても気持ちの上では全力投球で取り組んでまいりました。鉄鋼会社の専門図書館勤務を含めると約二十年にわたって図書館業務に携わったことになりました。私は運が良かったように思います。「人ありき」「人との出会い」に助けられて職責を全うすることが出来た事を感謝しています。

早島町立図書館の開館準備にあたって、準備委員会委員長の黒崎義博先生（元岡山市立中央図書館長）が提示された図書館の整備と運営方針は、全国のトップレベルにある町立図書館の運営実績を意識したものでした。今にして思えば、そのことが私自身の視野をひろげ、より高い目標をめざして前進する原動力になったように思います。本当に有り難いことでした。

図書館開館以来、館内に「図書館の自由に関する宣言」を掲示し、これを運営の規範としました。主文の冒頭には「図書館は、基本的人権のひとつとして知る自由をもつ国民に、資料と施設を提供することを、もつとも重要な任務とする」とあります。図書館の利用のされ方は私が思っていた以上に多種多様でした。そして、図書館は利用者によって育てられる側面があることも実感しました。し

かしながら、年齢別の登録者数内訳を見ますと二十代から五十代の男性の登録者数は女性の約五十パーセント程度にとどまっているという現実もあり、取り組みべき課題が多くあることを意識しながらの図書館運営でした。さらに、図書館サービスを提供する立場から図書館業務を見た時に実感したことは、全体的に経験に裏付けられた手作業が多い職場であるということでした。企業の専門図書館時代は調査がメインの業務でしたので余計にそう感じたのかもしれませんが。現状の開架方式を維持していくためには、書架整理は不可欠でしょうし、配架も自動化は困難でしょう。では、十年一日の如くこのままを継続していくのか。答えは「否」です。現在導入されつつある「ICタグ・システム」の進歩は、図書館業務の大幅な軽減とサービスの向上に寄与するものと思います。

利用者からの要望で図書を検索する場合、主に次の二つのケースがあります。①書名、著者などを特定して検索する場合。②主題で検索する場合。ここでは②のケースについて考えていきたいと思います。ある時「能舞台の床下に埋め込まれる甕のことに ついて何か本はないか」との問い合わせがありました。いろいろと図書館資料を探したのですが該当する資

料は見当たらず、結局インターネット検索を活用しました。キーワードは「能舞台・甕・音響効果」としました。その結果、甕の方向や埋められている甕の数等に関する面白い情報が沢山出てきました。検索結果には、ほぼ満足頂けたのではないかと思います。こうした主題で調査を依頼されるケースは結構ありました。図書館としてはインターネット利用環境を整え、可能な限り利用ガイダンスを行うことが望まれます。さらに、図書の主題調査については件名検索だけではなく抄録からも検索が可能な状態とする等のマーク(MARC)の充実を検討する必要があると思われました。

退職後は、二週間に一回の図書館(倉敷市立中央図書館)通いを始めました。早速、利用者端末用及びインターネット用のパスワード申込みを行ない活用しています。時にはカウンターに出かけることもあります。そんな時は音楽ライブラリーを訪ね演奏曲目を聴き比べたりしています。豊富なコレクションとの出会いはいつも新鮮です。

必要な情報の入手には図書館を大いに活用しています。私にとって図書館は生活と自己の充電に必要不可欠な存在です。

県外の図書館の先達の方々と

流も色々な形で続けてまいりました。その中で富士市在住の山本宣親氏(元富士市立西図書館長)の情熱には大いに触発されました。「図書館森(しん)時代」(山本宣親編・株日本地域研究所発行)の発刊に際しては、検討の段階から一緒にさせて頂きました。本書の中で山本氏は「図書館の未来は大きく変わります。本書からその図書館の未来を見通すヒントやきっかけをつかんでくださることを願っています」と述べています。例えば、ボランティア活動のことでお悩みの方には第六章「図書館とボランティア」(執筆担当・増山正子氏)が参考になると思います。社会が急速に変化する現代において、図書館が果たす役割はさらに重要になってくるでしょう。岡山県の図書館界のさらなる発展を念じています。



図書館開館準備委員会

岡山県図書館協会活動報告

新会員紹介

- 渡辺 真道 (岡山県立図書館)
- 難波 健吾 (岡山県立図書館)
- 中藤 淳 (岡山県立図書館)
- 今田 康之 (岡山県立図書館)
- 鶴目 健 (岡山県立図書館)
- 有富 和子 (岡山県立図書館)
- 岡村 早苗 (岡山県立図書館)
- 成石 泰昭 (岡山市立中央図書館)
- 三船 充是 (岡山市立中央図書館)
- 岡田 徳子 (岡山市立灘崎町図書館)
- 玉木 美帆 (岡山市立灘崎町図書館)
- 大本 森 (倉敷市立中央図書館)
- 渡邊 隆男 (倉敷市立中央図書館)
- 高森 梢 (津山市立図書館)
- 難波 悦子 (玉野市立図書館)
- 平井 忠之 (笠岡市立図書館)
- 渡辺 良信 (井原市立井原図書館)
- 小田 求 (総社市図書館)
- 松本 武彦 (備前市図書館)
- 大森 満 (赤磐市立中央図書館)
- 小倉 博子 (赤磐市立中央図書館)
- 上森 由恵 (赤磐市立中央図書館)
- 船越 恵子 (赤磐市立中央図書館)
- 大橋 幹人 (赤磐市立熊山図書館)
- 岡口 貴子 (赤磐市立熊山図書館)
- 金谷 将弘 (赤磐市立吉井図書館)
- 目澤 美和 (赤磐市立吉井図書館)
- 幡山 寛念 (赤磐市立赤坂図書館)
- 三村 清介 (和気町立図書館)

大川内 司 (里庄町立図書館)

坂手 準平 (鏡野町立図書館)

竹部 明美 (金光図書館)

安武 達真 (金光図書館)

金光 浩志 (金光図書館)

北林 晴美 (金光図書館)

秋田由紀子 (くらしき作陽大学附属図書館)

折橋美保子 (くらしき作陽大学附属図書館)

尾上 文字 (就実大学・就実短期大学図書館)

木村 東吉 (中国学園図書館)

松井 みさ (中国学園図書館)

亀井 教夫 (備前市立図書館日生分館)

長畑 有夏 (県立岡山商業高等学校)

根本 幸雄

伊藤 光春

新役員

異動・退職による役員の補充で次の方々が選出されました。

●会長

渡辺 真道 (岡山県立図書館館長)

●副会長

成石 泰昭 (岡山市立中央図書館館長)

山本 公子 (早鳥町立図書館館長)

●理事

大本 森 (倉敷市立中央図書館館長)

福島 厚生 (津山市立図書館館長)

小田 求 (総社市図書館館長)

坂手 準平 (鏡野町立図書館館長)

井上 啓治 (就実大学・就実短期大学図書館館長)

菱川 廣光 (岡山県立図書館副館長)

●監事

松本 武彦 (備前市立図書館館長)

平成十八年度図書館功労者表彰

次の方々が表彰されました。おめでとございます。

相見 真寿美 (新見公立短期大学図書館)

荒木 治子 (岡山市立中央図書館)

岸 友子 (川崎医科大学図書館)

黒瀬 知子 (就実短期大学)

土畑 恵子 (倉敷市立中央図書館)

西山 潤一郎 (県立新見北高等学校)

福意 昭教 (新見市立新見図書館)

藤井 広美 (倉敷市立中央図書館)

間野 久美子 (岡山市立鯉山小学校)

山下 都 (川崎医療短期大学附属図書館)

平成十八・十九年度企画委員

平成十八・十九年度の委員に次の方々が会長より委嘱されました。委員長には吉信友紀子氏、副委員長には相見真寿美氏が選出されました。

吉信友紀子 (岡山県立図書館)

高杉 敬子 (岡山市立幸町図書館)

三宅 織絵 (倉敷市立玉島図書館)

三宅 康栄 (赤磐市立中央図書館)

宿野 雅世 (美作市立作東図書館)

酒井由美恵 (鏡野町立図書館)

妹尾真理子 (矢掛町立図書館)

相見真寿美 (新見公立短期大学図書館)

折橋美保子 (くらしき作陽大学・作陽短期大学附属図書館)

全国図書館大会参加費の補助について

十月二十六日(木)、二十七日(金)に第九十二回全国図書館大会岡山大会が開催されます。当協会も主催団体の一員として準備をしているところですが、協会では施設に御所属のない個人会員の方々に参加費を補助することが総会において決定しました。会員の皆様にご参加いただいておりますのでお申し込みくださいますようお願いいたします。

いますようご案内いたします。

◎一人一、五〇〇円(三十名)の補助金額が変わります。

◎大会参加の領収書を添付の上お申し込み下さい。メ切は十一月二十八日(火)です。

●編集後記

今年度より事務局員となりました塚本です。よろしくお願いいたします。

今回から三回にわたって市町村合併に伴う図書館の様子をお知らせする予定です。また、個人会員のページを新たに設け会員の皆様の声をお届けします。次回は犬飼明子氏です。どうぞお楽しみに。また、会員の皆様には原稿の執筆をお願いすることになります。ご協力下さいますようお願いいたします。

平成十八年七月三十一日

〒七〇〇一〇八二三

岡山市丸の内二一六―三〇

岡山県立図書館

メディア・協力課 図書館協力班内

岡山県図書館協会

会長 渡 辺 真 道

(〇八六)一三二四―一二六九

訃 報

宇原 郁代氏

平成十八年六月四日逝去

享年五十八歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。